

学校読書調査集計 小学校

平成16年10月実施

学校名 市内小学校 第4.5.6学年

【八田・巨摩・御勅使・芦安・若草・櫛形・甲西】

調査生徒数 2,476 人

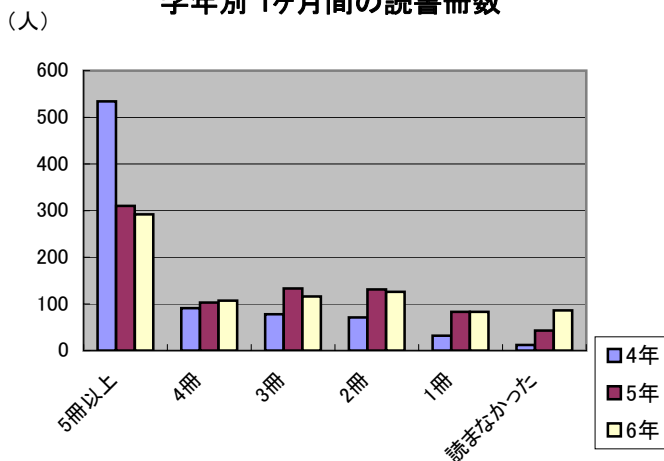
回答者数 2,431 人

回答率 98.2%

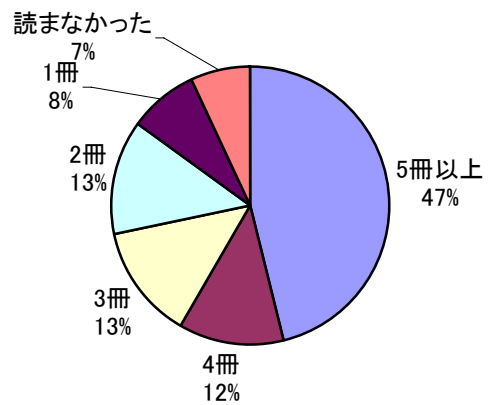
問1 あなたは10月1ヶ月間に、教科書、雑誌、マンガ以外の本を何冊よみましたか、次の記号を一つえらんで○をしてください。

冊数	4年	5年	6年	合計	%			
ア 5冊以上	534	65%	310	39%	292	36%	1136	47%
イ 4冊	91	11%	103	13%	107	13%	301	12%
ウ 3冊	78	10%	133	17%	116	14%	327	13%
エ 2冊	71	9%	131	16%	126	16%	328	13%
オ 1冊	32	4%	83	10%	83	10%	198	8%
カ 読まなかった	12	1%	43	5%	86	11%	141	7%
合計	818	100%	803	100%	810	100%	2431	100%

学年別 1ヶ月間の読書冊数



【問1 1ヶ月間の読書冊数】



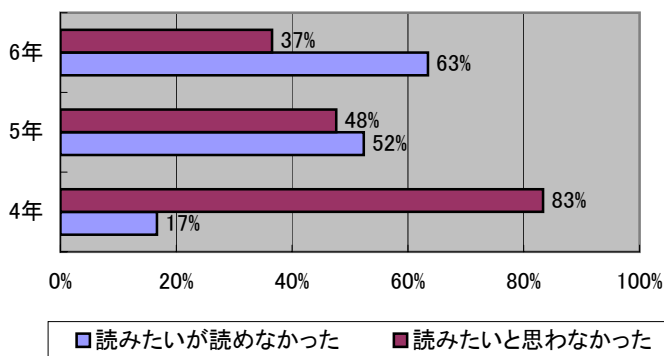
10月が校内の読書月間や読書週間と重なった小学校が多かったということもあり、全体の94%の児童が何らかの形で読書をしている。全体の約半数が5冊以上読んでいることは喜ばしいことである。しかしやはり高学年になるにつれて読む本の冊数が減る傾向がある。その原因に考えられるのは、一つは絵本のように短い物語からページ数の多いものになる、もう一つは読書離れする子が増えることが考えられる。読書離れの対策をどのようにしていくかが課題である。

問2 P18へ

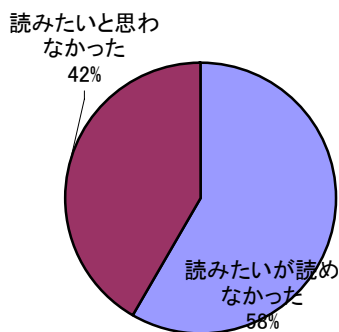
問3 1の問いで「読まなかった」という記号を選んだ人に伺います。それはどうしてですか。どちらかに○をしてください。

	4年	4年	5年	5年	6年	6年	合計	%
ア 読みたいが読めなかった	2	17%	22	52%	92	63%	116	58%
イ 読みたいと思わなかった	10	83%	20	48%	53	37%	83	42%
合計	12	100%	42	100%	145	100%	199	100%

学年別比較



【問3 読まない理由】

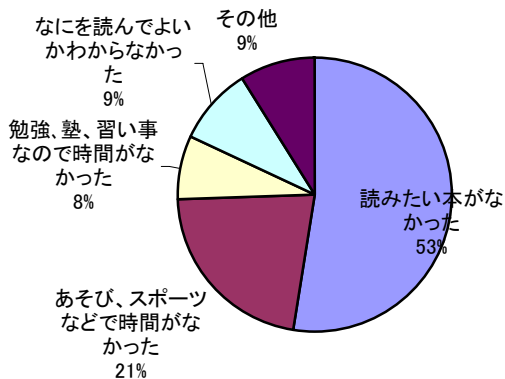


・読みたいが読めなかったという児童は、学年が進むにつれ多くなっている。高学年になるほど学校での活動が増えることや塾通いなどが影響しているのであろうか。
 ・読みたいと思わなかったという児童の割合は、下の学年になるほど多くなっている。高学年より比較的自由な時間が多いと思われるのに読みたいと思わなかったのは何が原因か、またこれらの児童に読書の楽しさを知らせるにはどのようにしていけばよいのかを検討する必要がある。

問4 3の質問でア「読みたかったが読めなかった」を選んだ人に質問します。それはなぜですか。どれか一つ選んで○をしてください。

	4年	5年	6年	合計	%			
ア 読みたい本がなかった	2	67%	10	42%	29	57%	41	53%
イ あそび、スポーツなどで時間がなかった	1	33%	5	21%	11	22%	17	21%
ウ 勉強、塾、習い事などで時間がなかった	0	0%	4	17%	2	4%	6	8%
エ なにを読んだらよいかわからなかった	0	0%	2	7%	5	9%	7	9%
オ その他	0	0%	3	13%	4	8%	7	9%
合計	3	100%	24	100%	51	100%	78	100%

【問4 読みたいのに読まない理由】

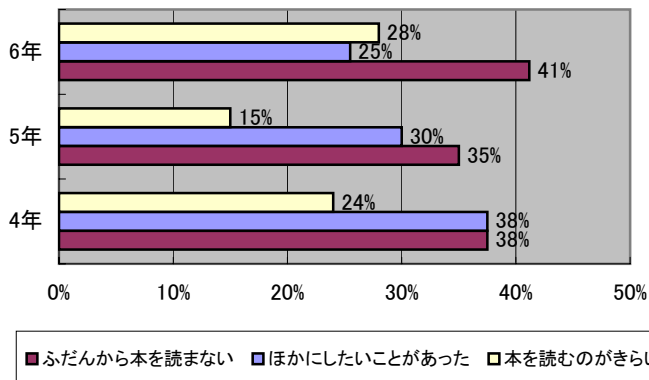


・「時間がない」という理由よりも「読みたい本がなかった」「なにを読んだらよいかわからなかった」が多いのは、主体的な読書の姿勢や興味が薄れているともいえる。
 ・「読みたい本がなかった」が半数以上を占めているということは、図書館側からの資料提供により、読む児童を引き上げる可能性があると考えられる。図書室や図書館でのアピールの方法が重要になる。

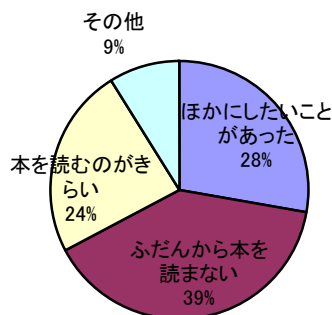
問5 3の質問で「読みたいと思わなかった」とこたえた人にうかがいます。それはなぜですか。どれか一つ選んで○をしてください。

	4年	4年	5年	5年	6年	6年	合計	%
ア ほかにかいたことがあった	3	38%	6	30%	13	25%	22	28%
イ ふだんから本を読まない	3	38%	7	35%	21	41%	31	39%
ウ 本を読むのがきらい	2	24%	3	15%	14	28%	19	24%
エ その他	0	0%	4	20%	3	6%	7	9%
合計	8	100%	20	100%	51	100%	79	100%

学年別比較



【問5 読みたいと思わない理由】

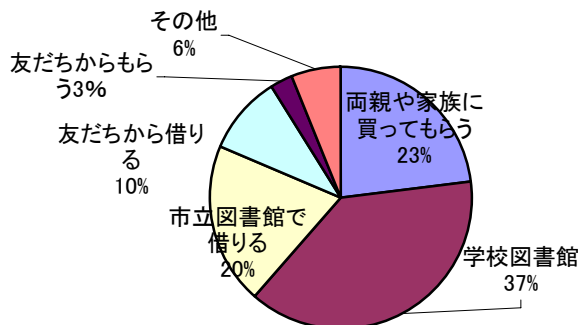


「ふだんから本を読まない」が4割いるが、子どものまわりが本を読む環境ではないということなのか。「本を読むのが嫌い」の児童を含め、身近にいる大人に本の楽しさを伝えていく必要がある。

問6 あなたは読みたい本を選ぶとき、どんな方法で本を用意しますか。次の記号で、あてはまるものすべてに○をしてください。

	4年	5年	6年	合計	%			
ア 両親や家族に買ってもらう	431	23%	394	23%	358	22%	1183	23%
イ 学校図書館で借りる	702	37%	650	39%	608	38%	1960	38%
ウ 市立図書館で借りる	389	20%	320	19%	315	20%	1024	20%
エ 友だちから借りる	181	9%	156	9%	158	10%	495	10%
オ 友だちが読み終わったらもらう	68	4%	48	3%	34	2%	150	3%
カ その他	137	7%	112	7%	140	8%	389	6%
合計	1908	100%	1680	100%	1613	100%	5201	100%

【問6 本の入手方法】



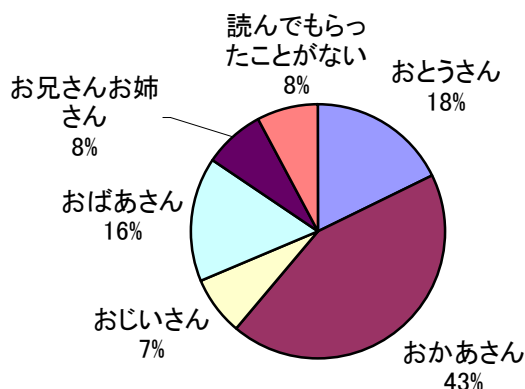
・全体の約6割が、学校または市立図書館で借りると答えている。図書館側の資料の構成や充実が求められる。
 ・両親や家族に買ってもらうという割合も高い。読書に対して親の理解があるととらえていいのだろうか。

問7 あなたは今までおとうさん、おかあさん、家族の人から本を読んでもらったことがありますか。次の記号で、あてはまる記号のすべて○をしてください。

	4年	5年	6年	合計	%			
ア おとうさん	284	19%	257	18%	221	16%	762	18%
イ おかあさん	621	42%	628	44%	620	44%	1869	43%
ウ おじいさん	99	7%	103	7%	120	9%	322	7%
エ おばあさん	230	16%	230	16%	227	16%	687	16%
オ お兄さんお姉さん	142	10%	93	7%	97	7%	332	8%
カ 読んでもらったことがない	106	6%	114	8%	120	8%	340	8%
合計	1482	100%	1425	100%	1405	100%	4312	100%

【問7 本を読んでもらう人】

・やはり両親に本を読んでもらう児童が多い。祖父母や兄弟に読んでもらうという児童もいることは、家族とのかかわりから考えても喜ばしいことである。、反面読んでもらったことがない児童が340人もいることは残念である。親自身が本を読まないのか。家庭での読み聞かせの大切さについて、幼児のころから働きかけていくことが大切である。



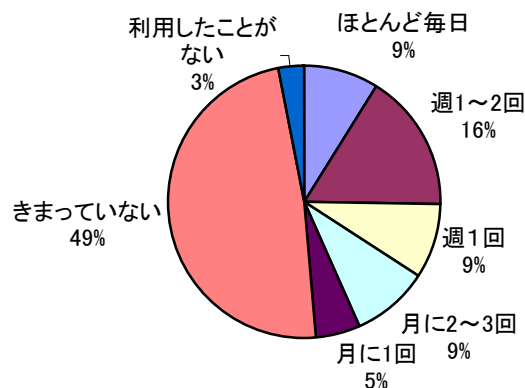
問8 授業時間のほかに学校図書館を利用したことがありますか。いつ、どのくらい利用していますか。それぞれ一つえらんでください。

(1) 利用回数

	4年	5年	6年	合計	%			
ア ほとんど毎日	87	11%	70	9%	66	8%	223	9%
イ 週に1~2回位	139	17%	151	19%	115	13%	405	16%
ウ 週に1回	55	7%	77	10%	88	10%	220	9%
エ 月に2~3回位	62	7%	81	10%	90	11%	233	9%
オ 月に1回位	21	3%	46	6%	58	7%	125	5%
カ きまっていない	420	51%	360	45%	397	47%	1177	49%
キ 利用したことがない	30	4%	11	1%	39	4%	80	3%
合計								

【問8(1) 利用回数】

・授業で多く使われるようになってきて、図書館が好きな本を探して読んだり、くつろぎにくるばかりでなく、自分の知りたいこと、情報を手に入れることのできる場所でもあることを知っていて、図書館の使い方が広がってきているのではないか。
・ほとんど毎日利用している児童は、下の学年ほど多い。授業以外には利用したことがないという児童が全体の3%を占めている。その割合が6年生について4年生が多い。ちょうど外に出て遊びたいという年頃だろうが、読書離れが始まるという4年生からの読書指導について検討していく必要がある。

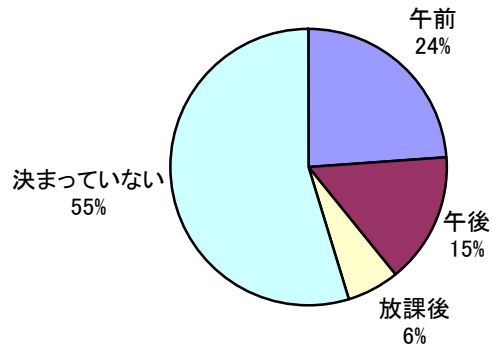


(2) 主な利用時間

	4年	5年	6年	合計	%			
ア 午前(朝、休み時間)	180	22%	192	24%	203	26%	575	24%
イ 午後(お昼休み、休み時間)	125	15%	121	15%	123	15%	369	15%
ウ 放課後	41	5%	51	6%	53	7%	145	6%
エ きまっていない	461	58%	437	55%	415	52%	1313	55%
合計	807	100%	801	100%	794	100%	2402	100%

【問8(2) 主な利用時間】

・利用時間は特に決まっていないという児童が半数以上を占めている。自分の行きたい時間に自由に利用している児童が多いと思われる。放課後よりも休み時間が多いのは、小学校は下校がはやいからというのもあるのか。



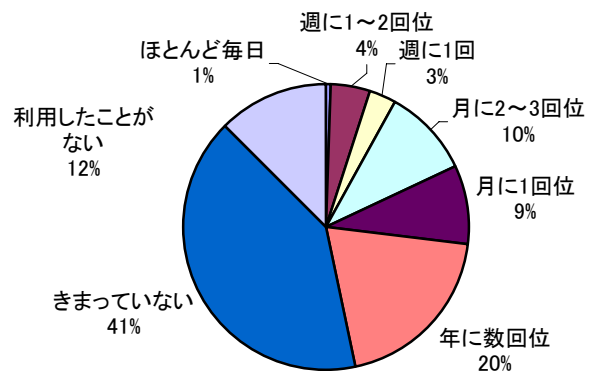
問9 南アルプス市立各図書館についてうかがいます。どの程度、いつ利用していますか。それぞれ一つえらんでください。

(1) 利用回数

	4年	5年	6年	合計	%			
ア ほとんど毎日	4	0%	3	0%	7	1%	14	1%
イ 週に1~2回位	45	6%	28	3%	33	4%	106	4%
ウ 週に1回	28	3%	30	4%	22	3%	80	3%
エ 月に2~3回位	77	9%	73	9%	93	11%	243	10%
オ 月に1回位	57	7%	69	9%	89	11%	215	9%
カ 年に数回位	124	15%	158	19%	201	24%	483	20%
キ きまっていない	369	47%	330	41%	301	37%	1000	41%
ク 利用したことがない	109	13%	120	15%	75	9%	304	12%
合計	813	100%	811	100%	821	100%	2445	100%

【問9(1) 利用回数】

・市立図書館がネットワークで結ばれたことで、市内全部の蔵書が検索でき、予約もかけられるようになったので、以前より利用しやすくなったのではないかと。
 ・総合的な学習の調べものや、社会科見学など図書館を訪れる機会が多いはずだが、「利用したことがない」が予想以上に多い。各地域に図書館があるので、利用の働きかけが必要である。



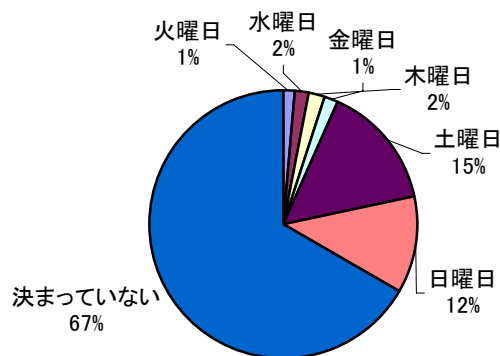
(2) 主な利用日

ア	火曜日
イ	水曜日
ウ	木曜日
エ	金曜日
オ	土曜日
カ	日曜日
キ	決まっていない
合計	

4年	5年	6年	合計	%			
5	1%	12	2%	13	2%	30	1%
11	2%	14	2%	18	2%	43	2%
7	1%	10	1%	27	3%	44	2%
11	2%	11	2%	11	1%	33	1%
112	15%	122	17%	111	13%	345	15%
95	13%	87	12%	91	11%	273	12%
486	66%	472	64%	556	68%	1514	67%
727	100%	728	100%	827	100%	2282	100%

・「決まっていない」に続いて、土日に利用するという児童が多い。小学生の場合は、休みの日に家族に連れて行ってもらうという児童が多いと思われる。学校週休2日の受け皿ともなっているのだろう。

【問9(2) 主な利用日】



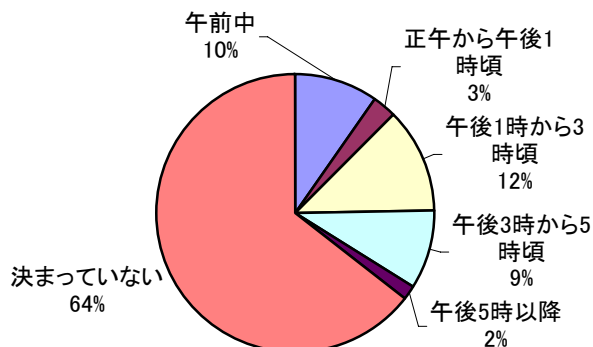
(3) 主な利用時間

ア	午前中
イ	正午から午後1時頃
ウ	午後1時から3時頃
エ	午後3時から5時頃
オ	午後5時以降
カ	決まっていない
合計	

4年	5年	6年	合計	%			
70	10%	64	9%	77	11%	211	10%
22	3%	21	3%	14	2%	57	3%
96	13%	88	13%	75	10%	259	12%
66	9%	67	10%	66	9%	199	9%
13	2%	10	1%	14	2%	37	2%
451	63%	448	64%	478	66%	1377	64%
718	100%	698	100%	724	100%	2140	100%

・決まっていないに続いて、午後の利用が多い。学校のある日は、放課後の利用がほとんどであろうし、土日は午前中よりも、午後ゆっくりと家族と利用する児童が多いのではないかと。

【問9(3) 主な利用時間】



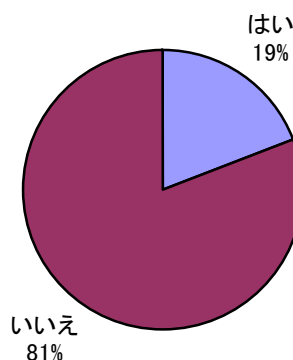
問10 市立図書館で、お読みにになりたい本が見つからないときは予約が出来ます。
このサービスについてそれぞれ一つ選んでください。

(1) 予約サービスを利用したことがありますか。

	4年	5年	6年	合計	%			
ア はい →(2)へ	159	20%	145	19%	146	19%	450	19%
イ いいえ →(3)へ	643	80%	632	81%	625	81%	1900	81%
合計	802	100%	777	100%	771	100%	2350	100%

・8割の人が利用していない。図書館の資料についてだけでなくサービスについてもアピールしていく必要がある。
・小学生の場合は、先に読みたい本があってそれを探すより、棚に並ぶ本の中から読みたいものを選ぶ方が多いこともあるのではないかな。

【問10(1) 予約サービスを利用するか】

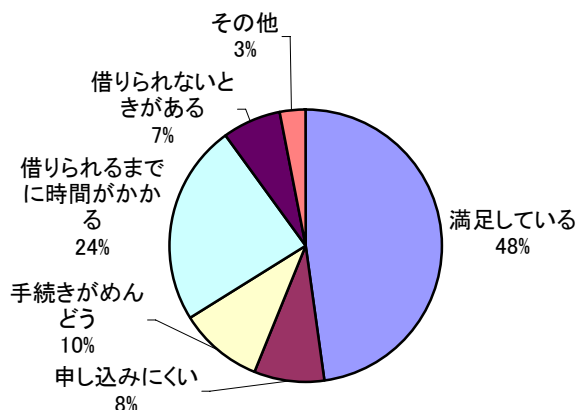


(2) 予約サービスを利用してどう思いましたか。

	4年	5年	6年	合計	%			
ア 満足している	88	51%	80	55%	61	38%	229	48%
イ 申し込みにくい	17	10%	9	6%	14	9%	40	8%
ウ 手続きがめんどろ	13	8%	16	11%	18	11%	47	10%
エ 借りられるまでに時間がかかる	46	27%	36	24%	37	23%	119	24%
オ 借りられないときがある	5	3%	5	3%	21	13%	31	7%
カ その他	2	1%	1	1%	11	6%	14	3%
合計	171	100%	147	100%	162	100%	480	100%

【問10(2) 予約サービスを利用して】

予約サービスを利用しているもののうち、約半数がサービスについて不満をもっている。読みたい本をなるべく早く手渡すことは、また次に利用してもらうためにも大切である。システム的な面も含めて改善を検討していく必要がある。

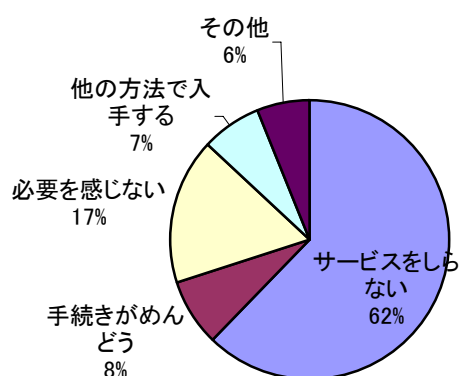


(3) 予約サービスを利用したことがない理由はなんですか

	4年	5年	6年	合計	%			
ア サービスをしらない	458	70%	375	58%	400	59%	1233	62%
イ 手続きがめんどろ	21	3%	53	8%	83	12%	157	8%
ウ 必要を感じない	73	11%	118	18%	132	20%	323	17%
エ 他の方法で入手する	49	8%	45	7%	42	6%	136	7%
オ その他	49	8%	56	9%	19	3%	124	6%
合計	650	100%	647	100%	676	100%	1973	100%

【問10(3)予約サービスを利用しない理由】

・サービスを知らないという児童が多い。市立図書館の利用案内を充実することはもちろんだが、学校での図書館利用指導や図書館見学の中で、市立図書館の利用の仕方についても指導していく必要がある。
 ・近くに図書館がある児童は別として、予約しても自分で取りに行くことが難しいので敬遠されてしまうのかもしれない。



学校読書調査集計 中学校

平成16年10月実施

学校名 市内中学校 第2学年

【八田・巨摩・御勅使・芦安・若草・櫛形・甲西】

調査生徒数 819 人

回答者数 749 人

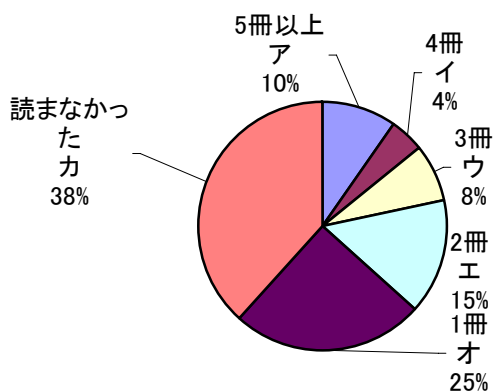
回答率 91.5%

問1 あなたは10月1ヶ月間に、教科書、雑誌、マンガ以外の本を何冊よみましたか、次の記号を一つえらんで○をしてください。

ア	5冊以上	73	10%
イ	4冊	32	4%
ウ	3冊	57	8%
エ	2冊	112	15%
オ	1冊	186	25%
カ	読まなかった	289	38%
合計		749	100%

・約4割は1ヶ月に1冊も本を読んでいない。読書離れの傾向が伺える。2年生という中学生活に慣れた時期に、自分の時間を読書に当てていないのは、3年生になるともっと本を読まなくなるのではないか。逆に、不読者が多いといわれる中学生の中で、1ヶ月3冊以上読んでいる生徒が22%というのは立派ともいえるかと思う。
・学校での読書の取り組みとして、読書週間中だけでも何らかの形で本に触れる方策を考える必要がある。

【問1 1ヶ月間読書冊数】



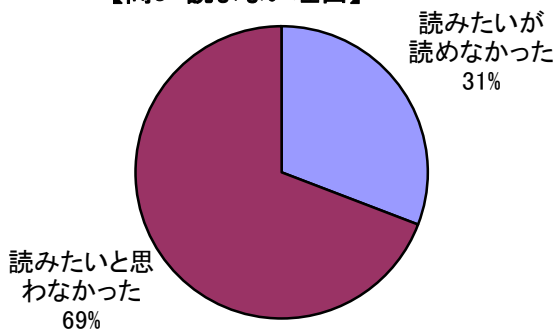
問2 P18へ

問3 1の問いで「読まなかった」という記号を選んだ人に伺います。それはどうしてですか。どちらかに○をしてください。

ア	読みたいが読めなかった	→質問4へ	94	31%
イ	読みたいと思わなかった	→質問5へ	210	69%
合計			304	100%

読まなかった生徒のうちの7割が「読みたいと思わなかった」と答えており、読む生徒と読まない生徒の住み分けがはっきりしている。少しでも本に興味をもたせるためにいろいろなジャンルの本を紹介するなど、読書に近づける手立てを考える必要がある。

【問3 読まない理由】

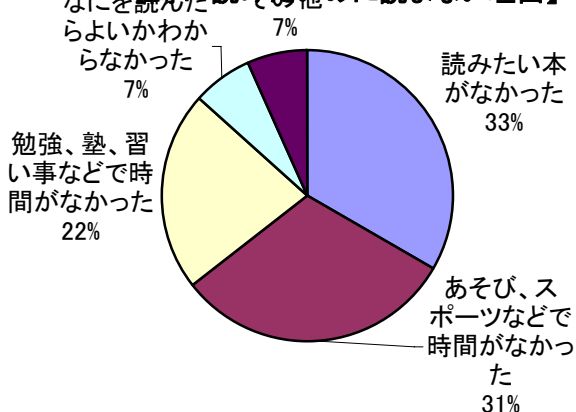


問4 3の質問でア「読みたかったが読めなかった」を選んだ人に質問します。それはなぜですか。どれか一つ選んで○をしてください。

ア	読みたい本がなかった	30	33%	
イ	あそび、スポーツなどで時間がなかった	28	31%	
ウ	勉強、塾、習い事などで時間がなかった	21	22%	
エ	なにを読んだらよいかわからなかった	6	7%	
オ	その他	6	7%	
合計			91	100%

「読みたい本がない」と答えた生徒が3割を占めるということは、図書館側の資料提供の如何によって、読む生徒を引き上げる可能性が大きい。この生徒層に図書館がどのような本を薦めていったらよいか、また、学校の中で読書の機会を増やしていくことができないか検討していく必要がある。

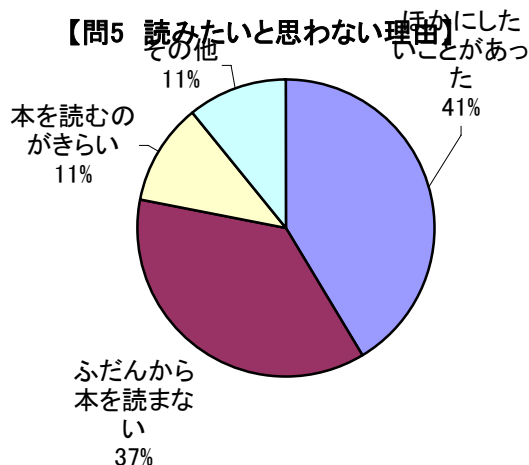
【問4 読みたいのに読まない理由】



問5 3の質問で「読みたいと思わなかった」とこたえた人にうかがいます。それはなぜですか。どれか一つ選んで○をしてください。

ア	ほかにしたいことがあった	89	41%
イ	ふだんから本を読まない	79	37%
ウ	本を読むのがきらい	24	11%
エ	その他	23	11%
合計		215	100%

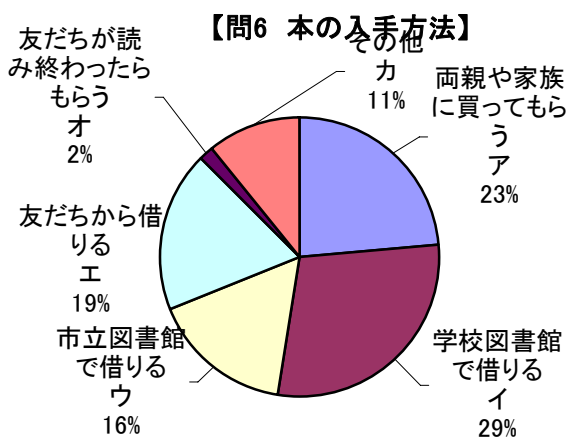
「読みたいと思わなかった」と答えた生徒のうち「本を読むのがきらい」と答えた生徒は全体の1割にすぎない。残りの9割の生徒はきっかけさえつかめば、読書する可能性が残っているのではないか。生徒の興味を持つ資料提供や工夫などの働きかけが必要である。



問6 あなたは読みたい本を選ぶとき、どんな方法で本を用意しますか。次の記号で、あてはまるものすべてに○をしてください。

ア	両親や家族に買ってもらう	366	23%
イ	学校図書館で借りる	452	29%
ウ	市立図書館で借りる	256	16%
エ	友だちから借りる	289	19%
オ	友だちが読み終わったらもらう	25	2%
カ	その他	171	11%
合計		1559	100%

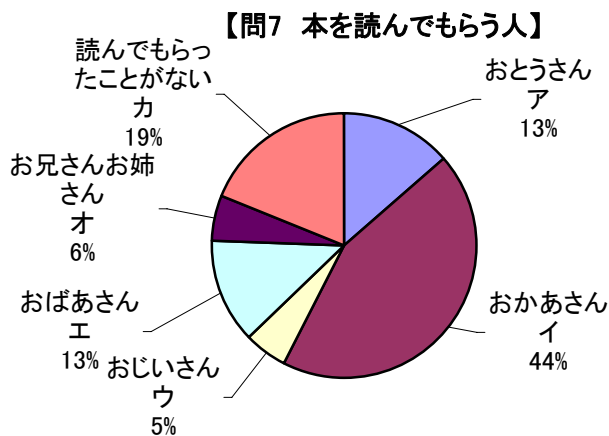
・全体の45%が学校または市の図書館で借りると答えている。図書館の利用率は高いといえるのではないだろうか。生徒が本を手に入れる手段としての割合の約半分が図書館であるということは、図書館側の充実した資料構成が求められる。
 ・中学生になると、友だち同士で本についての情報を交換する機会が増えるようであるので、生徒を巻き込んだ広報活動を考えることも必要ではないか。



問7 あなたは今までおとうさん、おかあさん、家族の人から本を読んでもらったことがありますか。次の記号で、あてはまる記号のすべて○をしてください。

ア	おとうさん	156	13%
イ	おかあさん	508	44%
ウ	おじいさん	61	5%
エ	おばあさん	148	13%
オ	お兄さんお姉さん	66	6%
カ	読んでもらったことがない	218	19%
合計		1157	100%

両親をはじめとする家族のかかわりがうれしいが、読んでもらったことのない生徒が19%いるのは残念である。子どもを本好きにするには、学校図書館や市立図書館だけでなく、幼児期からの家庭でのかかわりが大切であるので、この層に対する家族を含めた図書館側からのアプローチが必要となる。現在、ブックスタート事業を実施しているが、家庭における親子読書の必要性を話す機会を多く持つ必要がある。

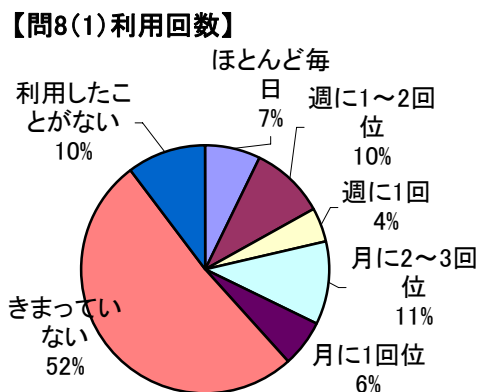


問8 授業時間のほかに学校図書館を利用したことがありますか。いつ、どのくらい利用していますか。それぞれ一つえらんでください。

(1) 利用回数

ア	ほとんど毎日	56	7%
イ	週に1~2回位	77	10%
ウ	週に1回	34	4%
エ	月に2~3回位	86	11%
オ	月に1回位	48	6%
カ	きまっていない	391	52%
キ	利用したことがない	80	10%
合計		772	100%

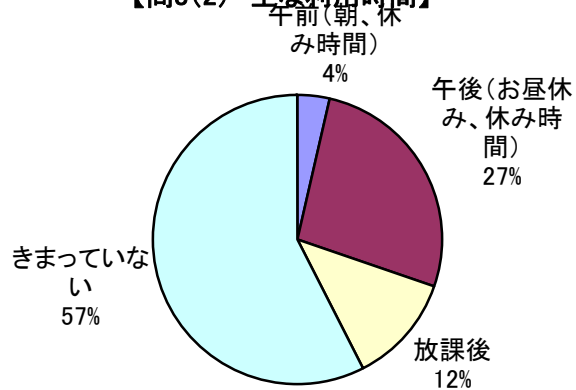
・決まっていない生徒が半数を占める。学校図書館に司書が配置されていて、いつでも図書館が利用できるということで、自分のいける時間に合わせて上手に利用しているのではない。
 ・利用したことがないという生徒が1割いるのは残念である。忙しい中学生に学校図書館に足を向けてもらえるようにするにはどのようにしたらよいか学校全体で検討していく必要がある。



(2) 主な利用時間		
ア	午前(朝、休み時間)	27 4%
イ	午後(お昼休み、休み時間)	202 27%
ウ	放課後	92 12%
エ	きまっていない	433 57%
合計		754 100%

決まっていなが半数以上である。中学生は、朝や放課後は部活動で忙しいので、学校にいる間の空いている時間を上手く利用している。図書館側の受け入れ態勢をきちんとしていく必要がある。

【問8(2) 主な利用時間】

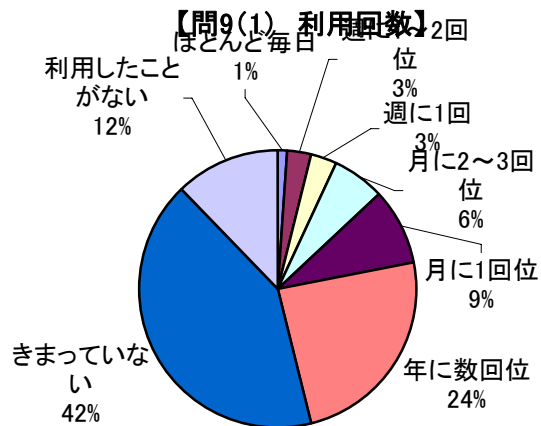


問9 南アルプス市立各図書館についてうかがいます。どの程度、いつ利用していますか。それぞれ一つえらんでください。

(1) 利用回数		
ア	ほとんど毎日	9 1%
イ	週に1~2回位	22 3%
ウ	週に1回	22 3%
エ	月に2~3回位	48 6%
オ	月に1回位	68 9%
カ	年に数回位	189 24%
キ	きまっていない	322 42%
ク	利用したことがない	95 12%
合計		775 100%

・9割の生徒が、何らかの形で利用している。中学生になると、試験等の前に勉強のために利用するという生徒も多いのではないかと。学習席利用だけでなく、読書に結びつく工夫をしていく必要がある。
 ・「利用したことがない」層に一度でも図書館に足を運んでもらうような活動を学校と協力しながらおこなうことも大事ではないか。

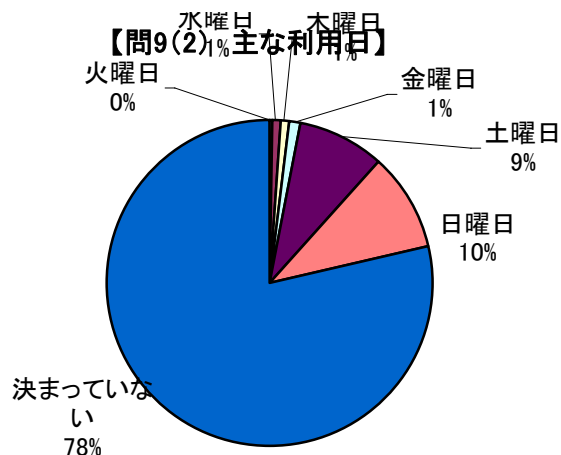
【問9(1) 利用回数】



(2) 主な利用日

ア	火曜日	3	0%
イ	水曜日	6	1%
ウ	木曜日	6	1%
エ	金曜日	8	1%
オ	土曜日	64	9%
カ	日曜日	71	10%
キ	決まっていない	589	78%
合計		747	100%

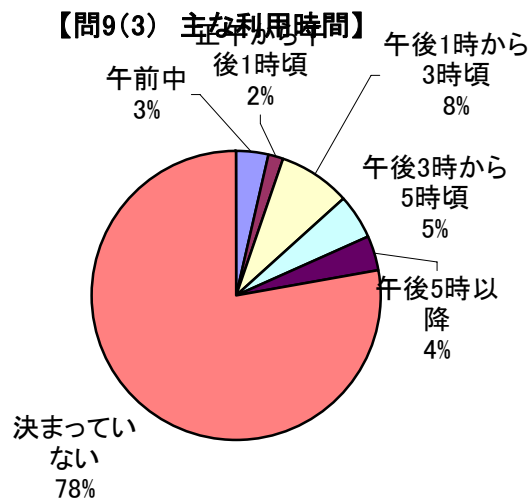
・平日は時間がないので、図書館が遠ければ利用しにくい。必然的に週末利用が多い。
 ・火曜日に時間延長しているのに、利用率が0%というのは以外であった。時間延長のPRを勧めていく必要があるのではないか。



(3) 主な利用時間

ア	午前中	25	3%
イ	正午から午後1時頃	13	2%
ウ	午後1時から3時頃	57	8%
エ	午後3時から5時頃	37	5%
オ	午後5時以降	27	4%
カ	決まっていない	561	78%
合計		720	100%

・決まっていないがほぼ8割であるが、部活動等で平日は夕方まで忙しいので、休みの日の午後の利用が多いのではないかとと思われる。



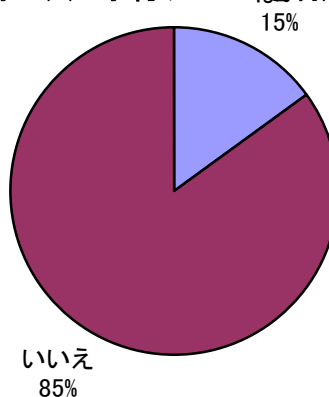
問10 市立図書館で、お読みにになりたい本が見つからないときは予約ができます。
このサービスについてそれぞれ一つ選んでください。

(1) 予約サービスを利用したことがありますか。

ア はい	→(2)へ	112	15%
イ いいえ	→(3)へ	639	85%
合計		751	100%

・サービスを知っていると答えた生徒は2割にみたく予想外に低い。中学生になると、学校図書館では対応できないような資料が必要とする也多い。図書館資料の提供だけでなくサービスについても学校図書館と連携しアピールしていく必要がある。

【問10(1) 予約サービスを利用するか】

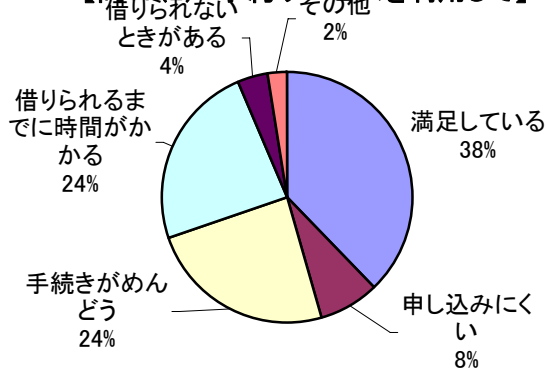


(2) 予約サービスを利用してどう思いましたか。

ア 満足している	46	38%
イ 申し込みにくい	10	8%
ウ 手続きがめんどろ	30	24%
エ 借りられるまでに時間がかかる	30	24%
オ 借りられないときがある	5	4%
カ その他	3	2%
合計	124	100%

・予約サービスを利用しているもののうち約半数がサービスに不満を持っている。「手続きがめんどろ」が24%と高いのはサービス定着の弊害になるので、改善の余地があるのではないか。
・借りられるまでに時間がかかるという回答が多い。今後予算が削られていく中で、各館が協力し合って資料収集をしていかなければならず、予約サービスに頼ることも増えていくと思われる。システム的な改善も含めて、予約資料の迅速な受け渡しについて考えていく必要がある。
・中学生になるとちょっとしたことでめんどろくさがる生徒が多いが、予約サービスのメリットを知らせ、上手に利用できるような指導が必要。

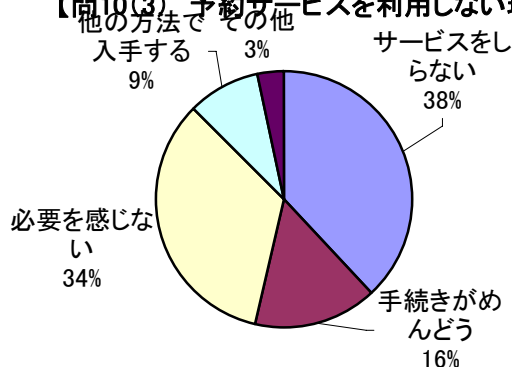
【問10(2) 予約サービスを利用して】



(3) 予約サービスを利用したことがない理由はなんですか		
ア サービスを知らない	240	38%
イ 手続きがめんどろ	98	16%
ウ 必要を感じない	213	34%
エ 他の方法で入手する	57	9%
オ その他	21	3%
合計	629	100%

・「サービスを知らない」と答えた生徒がやく4割いる。周知する工夫が必要である。
 ・「必要を感じない」というのは、予約をしなくても欲しい資料が手にはいるということなのか。必要なときに必要な資料を早く手渡せるような努力をしていくことが必要である。
 ・インターネットでの予約ができるようになれば、利用者の不便さは少しでも解消されるのではないか。

【問10(3) 予約サービスを利用しない理由】



読みたい本が見つからないことについては、閉架書庫にたくさん本があり、そこからも借りられることを知らないことも考えられる。書架を眺めて読みたい本を探す場合が多いので、閉架書庫の有効的な利用も考えたらよいと思う。

問2. 1の問いで1冊以上読んだとこたえた人に伺います。それはどんな本ですか。
次の口の中に読んだ書名を記入してください。

4年生

書名	人
かいけつゾロリシリーズ	91
怪談レストランシリーズ	79
ハリー・ポッターシリーズ	37
デルトラ・クエストシリーズ	29
野球の本	17
ぞくぞく村のおばけシリーズ	17
忍たま乱太郎シリーズ	14
ズッコケ三人組シリーズ	14
おさるシリーズ	12
シェラーひめのぼうけんシリーズ	11
ちびまる子ちゃんシリーズ	11
ペンギンシリーズ	10
サッカーの本	10
怪盗ショコラシリーズ	9
こまったさんシリーズ	9
モンスターホテルシリーズ	9
大どろぼうシリーズ	8
カボちゃんシリーズ	8
ローワンシリーズ	8
わんわん物語	8
ほうれんそうマンシリーズ	8
かいぞくポケットシリーズ	7
学校の怪談シリーズ	7
三国志	7
よこしまくん	7
ライオンキング	7
まめうしシリーズ	7
ミルキー杉山のあなたも名探偵	7
バムとケロシリーズ	7
プカプカチョコレート島シリーズ	7

5年生

書名	人
怪談レストランシリーズ	110
ハリー・ポッターシリーズ	51
パスワードシリーズ	32
かいけつゾロリシリーズ	31
デルトラ・クエストシリーズ	23
ワールドシリーズ	21
ダレン・シャンシリーズ	20
イチロー	13
野球の本	13
ハッピーバースデー	11
ズッコケ三人組シリーズ	11
かいぞくポケットシリーズ	8
学校の怪談	8
恐怖スクール	8
三国志	8
魔女の宅急便	8

ローワンシリーズ	8
マリア探偵社シリーズ	7
忍たま乱太郎シリーズ	6
野口英世	6
ベートーベン	6
グリム童話	6
ぞくぞく村シリーズ	6
あしたからは名探偵	5
おはなしちびまる子ちゃん	5
電池が切れるまで	5
中村俊輔	5
ヘレンケラー	5
指輪物語	5
怪盗ルパンシリーズ	5

6年生

書名	人
怪談レストランシリーズ	54
ハリー・ポッターシリーズ	50
ダレン・シャンシリーズ	45
ズッコケ三人組シリーズ	25
パスワードシリーズ	23
デルトラ・クエストシリーズ	21
将棋の本	11
電池が切れるまで	10
ネシャン・サーガシリーズ	10
おはなしちびまる子ちゃん	10
いま、会いにゆきます	8
キノの旅	8
サークル・オブ・マジックシリーズ	7
七つの封印シリーズ	7
サッカー	7
ハードル	7
三国志	6
封神演技	6
野口英世	6
蹴りたい背中	6
“it”(それ)と呼ばれた子	6
リズム	5
空想科学読本	5
鏡の中の迷宮	5
イチロー	5
世界の中心で、愛をさけぶ	5
みにくいあひるの子とよばれたい	5
グッドラック	4
魔女の宅急便	4
ファイティングニモ	4
青空のむこう	4
伊東家の食卓	4
五体不満足	4
パーティミアス	4
ハッピーバースデー	4
すてネコタイガーと家出犬スポット	4

中学2年生

書名	人
ハリー・ポッターシリーズ	19
“It”(それ)と呼ばれた子	6
いま、会いにゆきます	6
ダレン・シャンシリーズ	6
ガールズ	6
世界の中心で愛をさけぶ	5
たったひとつのたからもの	5
ローワンシリーズ	5
グッドラック	5
指輪物語シリーズ	4
夜回り先生	4
Deep Love	4
青空のむこう	4
キノの旅	4
空想科学読本	4
シャーロックホームズシリーズ	4
蹴りたい背中	4
インストール	3
ウォータボーイズ	3
三国志	3
ジーク	3
小説鋼の錬金術シリーズ	3
電池が切れるまで	3
バーティミアス	3
三毛猫ホームズシリーズ	3
リアル鬼ごっこ	3
インストール	3
青の炎	3

★読んだ本は何か

小学生の上位にシリーズものが挙がっている。特に「かいけつゾロリ」は中学年に人気があり、ストーリーは1巻ずつ完結の形をとっているが全体には続き物になっているため、シリーズで読まれている。ゲーム感覚で読める本や、怖い話などが、友だちからの口コミで多く読まれているのではないかと。「ハリー・ポッター」は調査した学年すべての上位に挙がっている。図書館でのリクエストの年代をみても、小学校中学年から大人まであり、幅広い層に読まれている。ハリー・ポッターからファンタジー人気に火がついたのは一般でも共通した傾向であるが、特にこの分野のシリーズはページ数の多い厚い本であっても子どもたちに多く読まれている。

スポーツ選手の本も読まれている。将来の夢としてプロスポーツ選手をあげる子も多いこの年代の子に、活躍する選手の本が読まれているものと思われる。また、芥川賞、直木賞受賞作品が読まれているが、著者の年代が近いということで、身近に感じられるのではないかと。

全体的にみて、テレビや映画化されて話題になった本読まれている。従来の名作といわれる作品はほとんど読まれてはいなかった。軽く読めるファンタジーが多いことは、テレビやゲームで育った世代なので、ある程度予測はしていたが、これを手がかりに読書のステップアップを望む。